

目 日常生活の中で、「自分でこみを集積所まで持っていく」「腰を痛めて、台所に立てない」「料理ができない」「肩が痛くて洗濯や掃除が滞っている」そんな取るに足らないかもしれないけれど、生活に直結した各家庭のお困りごとを手伝い助け合うボランティアグループが町内各地区で発足しています。ボランティアグループは「住民参加型在宅福祉サービス」と総称しますが各地区でグループ名が異なり、それぞれで活動しています。2022年7月に菺野東地区に「くらしサポート愛の手」が発足し、町内のほとんどの地域で困っている方に対してサポーターを派遣できるようになりました。

日常のお困りごとを助ける
と推計されています。今後さらに人口が減少し、高齢化が進めば医療や介護のニーズが高まる一方で、人材の不足により必要な治療や介護を受けられず、これまで同様のサービスを受けられなくなるかもしれません。もちろん自治活動やボランティアなどの担い手不足も予想されます。

地域の環

Community welfare cycle

少子高齢化がもたらすさまざまな課題
そんな課題を解決する足がかりになる方法とは
【地域を支える力が「環」となり、循環する】
これが、今後のこのまちを支える大きな力となるかもしれません

人 口減少社会となり、少子高齢化社会のさまざまな問題に直面している現代の日本。菺野町においても、その影響は例外ではありません。これから「団塊の世代」が一齐に75歳を迎える「2025年問題」などで、さらに高齢化に拍車がかかることが予想されます。そのような状況の中、私たちは何ができ、何に取り組みたいのでしょうか。そんな身近な問題に、一石を投じることができるかもしれない「地域の環」が生み出す力について、今月号では取り上げてみます。

菺野町が直面する高齢化の波
野町では、2018年を境に人口減少が始まり、65歳未満の人口が減少傾向にある一方、65歳以上の高齢者人口は年々増加しています。2015年は町内の65歳以上の方が10,247人で高齢化率は25.5%でしたが、2045年には65歳以上の方が12,955人、高齢化率は34.8%になる



令和4年7月に開催されたくらしサポート愛の手発足式



日常生活の中にある
何気ない困りごと
そんな些細なことでも
お手伝いで支える

手
対象は高齢者だけじゃない
頼りになる地域の

EXAMPLE 01
ケガをして動けず、買い物などにいけない

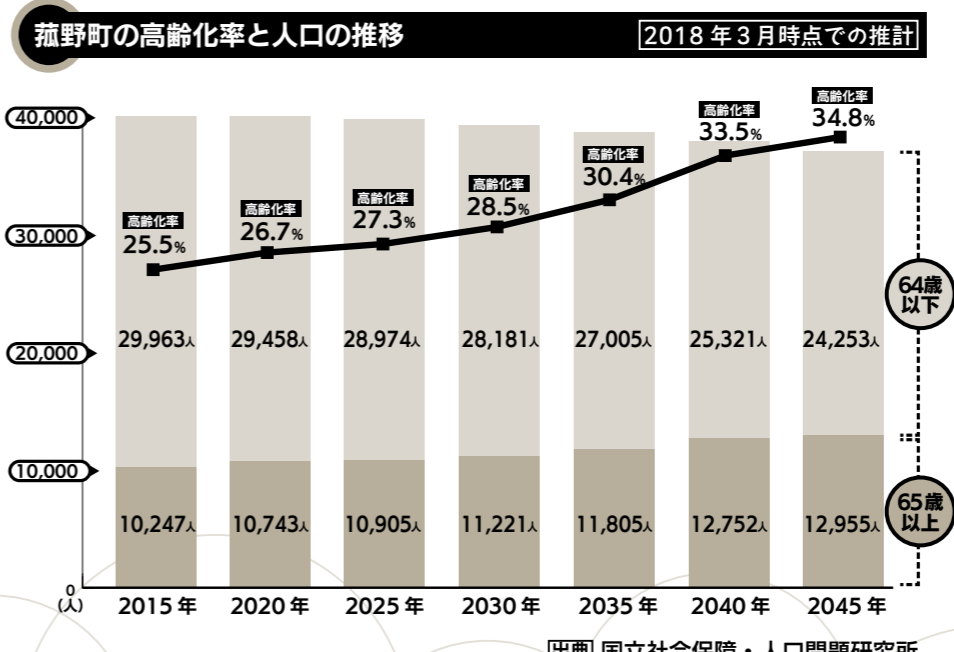
EXAMPLE 02
身内が近くにおらず、子育てで時間がない

住民参加型在宅福祉サービスを利用できるのは高齢者だけではありません。身近なところから手が借りられない若い世代でも誰でも利用することができます。若い世代や子育て世帯もぜひご利用ください。

地域で助け合う皆さんを支援

地域で助け合う住民参加型福祉サービスは地域のニーズから生まれてきたものですが、年々利用者が増えてきています。そのため、5つの各小学校区単位で計画的に発足を進めてきました。事務局である社会福祉協議会では、サポートを行う皆さんのため、生活支援コーディネーターが研修やアドバイスを行って支援しています。

サポーターの声
Supporter's voice
菺野町社会福祉協議会
ひらいみつる
会長 平井 満さん



何歳からが高齢者？
高齢者の定義

日本を含む多くの国では高齢者を暦年齢で65歳以上と定義しています。日本の総人口に占める65歳以上の方の割合は28.4%*です。
*2019年10月1日時点